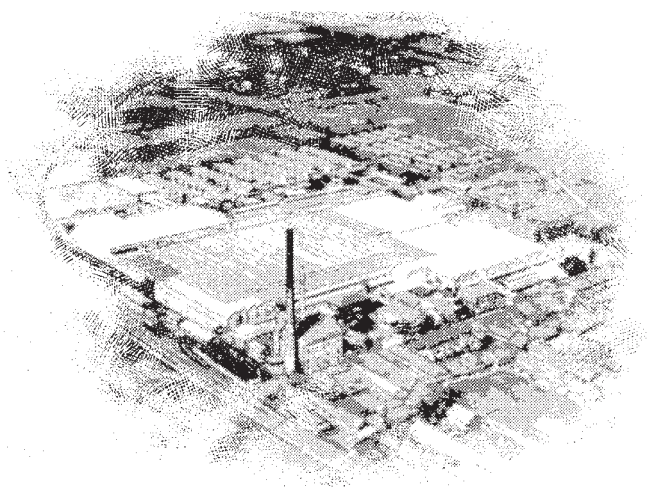


第4章

岩井商店

中央毛糸紡績
(現・トーア紡コーポレーション)設立、
長岡禅塾設立



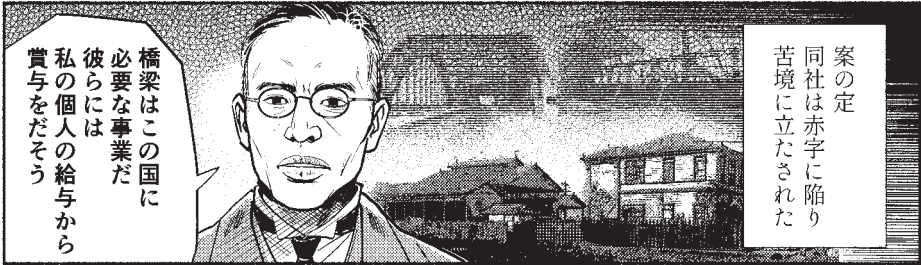


……
重工業不振が
起きるだろう
岩井の
重工業といえば
日本橋梁だな



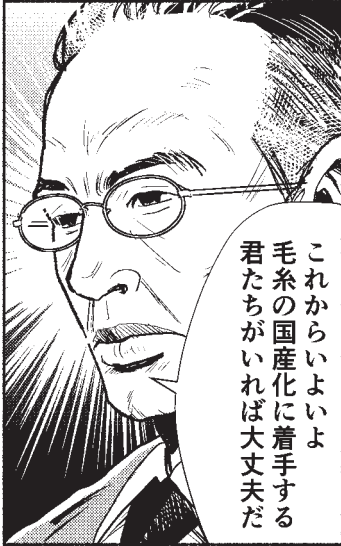
勝次郎社長っ！
海軍軍縮条約が
締結されました

大正一（一九二二）年の
ワシントン軍縮会議は
岩井商店にも
大きな影響を与えた



橋梁はこの国に
必要な事業だ
彼らには
私の個人の給与から
賞与をだそう

案の定
同社は赤字に陥り
苦境に立たされた



これからいよいよ
毛糸の国産化に着手する
君たちがいれば大丈夫だ



みんな
よく戻って
きてくれた

この頃
岩井商店では
大きな
プロジェクトが
進んでいた

小西音夫くん
浅井秀雄くん
花水馨くん

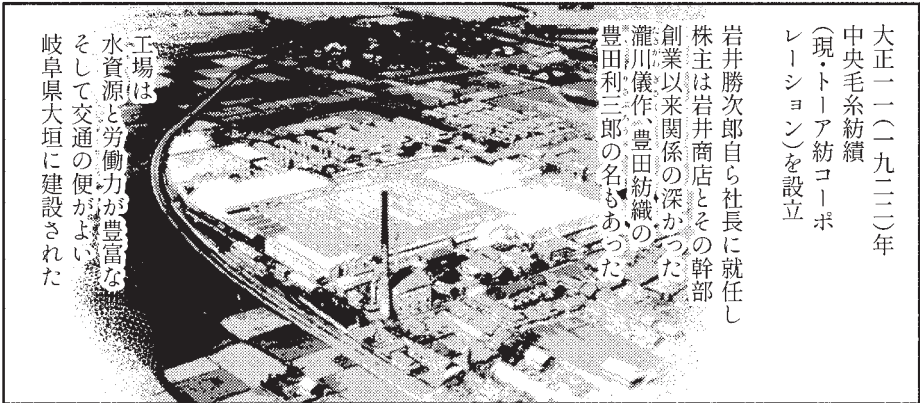


第一次大戦中
ロシアから
軍用衣服の
注文が大量に
入るなど
毛織物産業は
活況を呈じて
いた

岩井商店は
原料の
毛糸輸入では
最大手であり
国産化は
自然の流れ
であった

翌年には花水警を欧州の
毛織工場の視察に派遣

大正七(一九一八年)年
小西音夫、浅井秀雄の
二名を豪州の羊毛学校へ
留学させる



工場は
水資源と労働力が豊富な
そして交通の便がよい
岐阜県大垣に建設された

大正一一(一九二二)年
中央毛糸紡績
(現・トリア紡コロー
レーション)を設立

岩井勝次郎自ら社長に就任し
株主は岩井商店とその幹部
創業以来関係の深かった
瀧川儀作、豊田紡織の
豊田利三郎の名もあつた

※ 豊田利三郎は豊田自動織機製作社長、トヨタ自動車工業初代社長を歴任。



関東大震災により
災害時の着物の
非活動性が問題になり
婦人用の簡単服が
実用化されていく

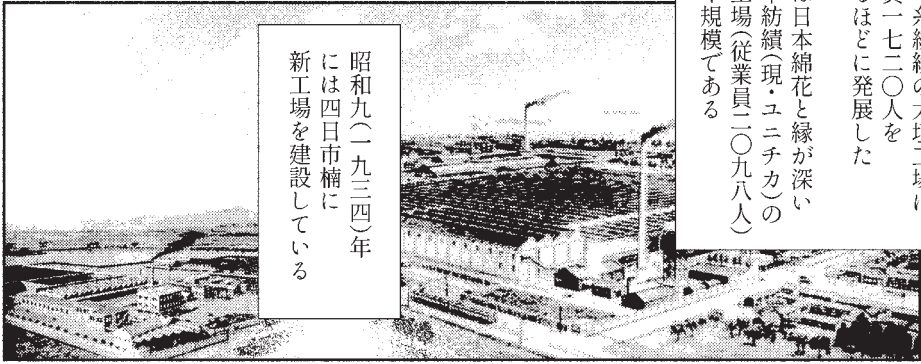
「アツパツパ」の
呼び名の
簡単服が流行
バスガールや
百貨店の
女子店員に
制服さが

また
女学生は袴姿から
セーラー服に代わり
洋装化は一段と
広まった

これに伴って
毛織物需要も
増加した

昭和八（一九三三）年には
中央糸紡績の大垣工場は
従業員一七二〇人を
抱えるほどに発展した

これは日本綿花と縁が深い
大日本紡績（現・ユニチカ）の
大垣工場（従業員一〇九八人）
に次ぐ規模である

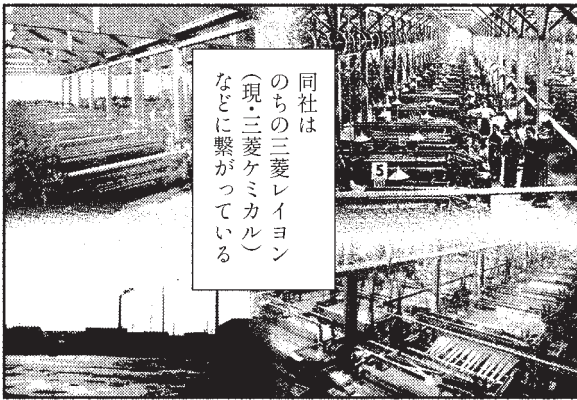


昭和九（一九三四）年
には四日市楠に
新工場を建設している

なほ
鈴木商店も
毛織物事業を
展開していた

大正六（一九一七）年に
東京毛織を設立し
千住、王子、大井、
岐阜大垣、大阪泉尾の
五工場体制にて
我が国の毛織物事業に
独占的な地位
（シェア六三％）を
占めた

同社は
のちの三菱レイヨン
（現・三菱ケミカル）
などに繋がっている



その鈴木商店が
破綻した一報は
すぐに岩井勝次郎の
もとにも届いた

勝次郎社長……
鈴木商店が
破綻しました

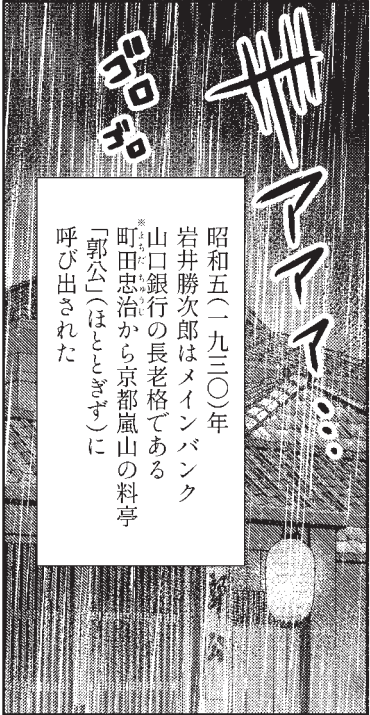
そうか
急拡大路線が
このような結果を
生んでしまった
……





……が、金子さんがつくった事業は我々を助けてくれるかもしれんぞ

えっ？
それは
どうい
う……



昭和五(一九三〇)年
岩井勝次郎はメインバンク
山口銀行の長老格である
*町田忠治から京都嵐山の料亭
「郭公」(ほととぎす)に
呼び出された



時間がそれを
証明してくれる
耐え忍ぼう

戦後不況
鈴木商店の破綻
世界恐慌などの
経済危機は
岩井商店にも
無縁ではなかった

岩井商店は
大正八年(一九一九)年下期から
昭和七(一九三二)年下期まで
二期(一三年間)連続無配となる

日本曹達工業
(現トクヤマ)
立ち上げの不振が
大きく響いてきた



岩井商店は
無配続きだ
君はそれでも
男か!?

※ 日銀出身、東洋経済新報社設立。大蔵大臣、商工大臣、農林大臣、日本進歩党・立憲民政党総裁。



雨は
いずれ
やみませす

株式
三和銀行
会社
中核資産

山口銀行も
岩井商店向け融資が
拡大し経営が不安定化
鴻池、三十四銀行との
合併を決意

昭和八(一九三三年)
これら三行が合併し
三和銀行
(現・三菱UFJ銀行)
が誕生する

大阪三和銀行を創立
新三和銀行を創立
新三和銀行を創立
新三和銀行を創立

※ 山口銀行は岩井商店と、三十四銀行は複数の日本綿花発起人と関係が深いことから、戦後、日尚岩井、ニチメンとともに三和銀行の親睦会であるみどり会に所属。

そしてついに
長年の苦勞と挑戦が
報われはじめる

事業とはひとたび
手がけたらからには
どんな困難にあっても
成し遂げなければならぬ
ただし世間並みの
努力ではダメだ

他社にない新製品
本当にお客さんが
欲しがっている
塗料をつくれれば
売れるその芽が
関西ペイント
にはあるはずだ

大正七(一九一八)年創業の
関西ペイントは反動不況の影響で
四年目にして危機を迎えていた

紹介しよう
このたび
常務に就任する
織田秋之助くんが
まだ三二歳だが
しっかりしている

そしてもうひとり
児玉正雄くんが

新入社員ですが
提案してもいい
でしょうか？

児玉は東京帝国大
工学応用科学科卒
同大学の田中芳雄教授の
紹介で入社した

もちろん
なんだ？

ラッカーという塗料を開発させてください！

従来の塗料では乾くまで十数分必要ですがラッカーはあつという間に乾き光沢、耐水性にも優れます

これから自動車の時代すなわち大量生産の時代が来ます

児玉くんによるとスプレーで塗布するそうですやらせてください！

.....
声無くして人を呼ぶ、と言ういい物を安く売っておけば裏店で売っておっても買ってくる粗末な物を高く売っておったら銀座の真ん中で売っていても買いいはこない

これは商売人としては一日も忘れてはならぬ

いいだろう最高の塗料を開発してくれ

はいっ！

大正一五
（一九二六）年
我が国初の
国産ラッカー
（ブランド名・セルバ）
の工業化に成功
同じ頃日本の
自動車産業が勃興
関西ベイントは
スプレー塗装の
普及のための
啓蒙活動も行った
そして関西ベイントは
昭和五（一九三〇）年
決算で創業年以来
一二年ぶりの
復配を果たした



一方 大戦後
海外勢のダンピングに
苦しめられてきた
日本曹達工業
(現・トクヤマ)も
転機を迎える

金子さん
ようやく来ましたね
鈴木商店破綻すれども
事業は死なず……

勝次郎社長
どうされ
ました？

帝国人造絹糸の
岩国、三原などの工場が
軌道に乗ってきた
そのおかげで原料である
ソーダ(アルカリ)の
需要が急に伸びている！

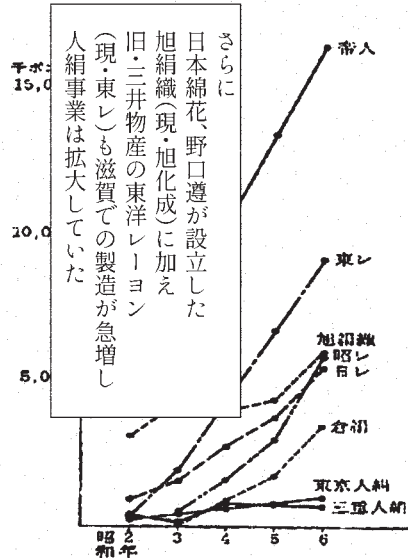
鈴木商店は
破綻した
のでは？

優良な事業は
鈴木商店の
債務を負いながら
自主独立している
日本人だけで
フランス一国の
生産量に匹敵
するそうだ

なんと……！
たしかに人絹は
日本の重要な
輸出品に
なってきました

我々が踏ん張ったからこそ
国産のソーダが供給できている
諦めていたら日本の人絹も
海外には勝てなかつたはず
日本の化学工業が
世界に打って出る瞬間だ

おかげで日本曹達も
一四年経ってようやく
配当してくれた



グラフは『滋賀県史』昭和編 第4巻(商工編)より



勝次郎社長
大事件です！
創業以来
技術面で我が社を
支えていた
岩瀬徳三郎が
脱藩しました！



しかしやっと
利益が出始めた
この命懸けの事業
わたしはやり出したら
やめない！



岩瀬くんとは
経営方針が合わなかったが
まさかこうなろうとはな
『日本』より大きな『東洋』か
彼らしいな……

それで
岩瀬くんは
どうした？

はい……社員三三名
工員一名を伴って退社
徳山工場の隣接地に
工場を構えました
名前も東洋曹達工業
(現・東ソー)だと……



このとき岩井商店から九名
徳山鉄板から三名が
日本曹達工業(現・トクヤマ)に
派遣された

勝次郎が手掛けたソーダの製造は
現在でも続いている



織田くん

関西ペイントでは
よくやってくれた
悪いが徳山に行つて
日本曹達の危機に
手を貸してくれ

分かりました
もう私がいなくても
関西ペイントは
大丈夫です

そして
大日本セルロイドは
岩井商店を通じて
世界中にセルロイドを輸出
特に欧州向けには
ロンドン支店の
小林節太郎が活躍した



大日本セルロイドでは
新たにセルロイドを原料とした
写真と映画用フィルムの国産化に
向けた準備が進められていた



昭和九(一九三四)年
大日本セルロイドの
子会社として
富士写真フィルムを設立



※小林節太郎は富士写真フィルム第三代社長(一九六〇〜一九七一年)に就任。
※長男の小林陽太郎は富士ゼロックス社長、会長に。経済同友会代表幹事。

勝次郎社長
商工省が
写真フィルム工業を
ソーダ、染料に次いで
国の助成産業に
する方針です



皆頑張ってくれているな
岩井商店も協力を惜しむな

こうして同社設立にあたって
岩井商店と関係が深い
長嶋鶯太郎(岩井商店法律顧問、
日本曹達工業社長)が監査役に
西宗茂二(大日本セルロイド取締役)
が取締役として就任
そして小林節太郎(当時三四歳)が
営業部長として抜擢された



経営に禅の精神を採り入れたことで知られる岩井勝次郎はそれを教育にも広めようとしていた

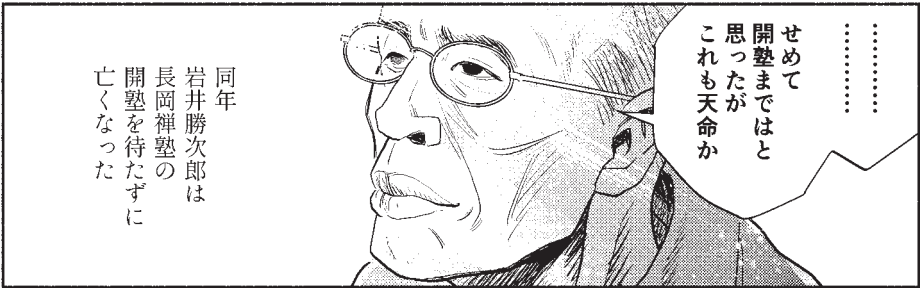
昭和一〇（一九三五）年
京都の長岡天神に近い敷地に
長岡禅塾の開塾を決意する



しかし



大戦時には
成金が跋扈し最近では
軍部の暴走が目立つ
人心の荒廃が著しい
禅塾を開設し
教育にも
力を入れよう



せめて
開塾まではと
思ったが
これも天命か

同年
岩井勝次郎は
長岡禅塾の
開塾を待たずに
亡くなった

晩年に口述された
岩井勝次郎の
遺訓が現存する

そこには
子孫への助言として
バランス経営の推進や
適性人事が重要であること
浮利を求めず
誠実に汗を流すべきこと
家庭円満を維持すべきこと
などが記されている

岩井商店はその後
岩井産業と商号を変更し
事業を継続していく

遺訓序
先考は生も静徳は
常徳を重んずるは
氣魂を
先考は生も静徳は
常徳を重んずるは
氣魂を